



炬火を掲げていざ謳う

No.53



# 我らの泉鳥取

2023年8月30日(水)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府大阪市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

修学旅行 事前学習

## アイヌの歴史と文化を知る

2023(令和5)年7月11日、47期生修学旅行の事前学習として、アイヌ民族文化アドバイザーの藤戸ひろ子さんを招いて、アイヌ民族の歴史と現在についての講演会を行いました。この取組みは公益財団法人アイヌ文化振興財団の支援を受けて実施されました。

「イラムカラプテ(初めまして)」アイヌ語のご挨拶から講演が始まりました。

47期、本校最後の学年団は来る9月9日から12日にかけて、北海道修学旅行を実施します。最初の訪問先が国立アイヌ民族博物館(ウポポイ)ということで、北海道に残る先住民族であるアイヌ民族について、事前学習をすることになりました。昨年度は東日本大震災の被災地を訪問するため、気仙沼出身の方に講演をいただいたのですが、今回はアイヌ民族の藤戸さんにお話をいただきました。

明治以降、政府は北海道の開拓に力を入れます。しかしこの「開拓」は先住民族であるアイヌの人々の土地を奪う行為となりました。

もともとアイヌは、狩猟・漁労・採集で生活をしていました。これまでアイヌの人々に恵みをもたらした大地は、日本からの移民によって広大な田畑となり、



アイヌ独自の生産が破壊されました。さらに、当時の政府はアイヌを日本文化に同化しようとしてきました。このような動きの中で、アイヌ文化は次々に奪われ、現在ではアイヌ方言の中で旭川の言葉が話せる人が僅か5人ほどに減ってしまったのです。この流れを変えたのが、アイヌ文化を守るために奔走した、萱野茂さんをはじめとする人々の活動でした。

1997(平成9)年、国会はこれまでの法律を廃止し、アイヌ文化振興法を全会一致で可決、それ以降、アイヌ文化の紹介が全国で始まりました。

藤戸さんもこれまで様々な経験をされてきましたが、まずアイヌ文化を知り、それを楽しんでもらうことから差別がなくなっていくので、とにかくアイヌ文化を楽しんでほしい、という内容の講演でした。当事者にしかわからない、重たい内容もありましたが、アイヌの人々の生活に触れ、また修学旅行での楽しみが増えました。

